

昭和52年度
(1977)
第17回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌藻岩

【 専門委員長 寸評 】

団体男女、個人女子単複、男子単複準決勝進出、学校創立5年目にしてこの偉業を成しとげた札幌藻岩高校にまず賛辞を贈り、ここまで育て上げた緒方先生に敬意を表したい。

男子団体の対抗馬は札幌が予選で落ちたため札幌旭丘、札幌西となったが、両校とも選手層が薄く、ダブルスに利のある札幌藻岩に凱歌があがった。

女子団体は圧倒的に藻岩が強く楽勝。全般的に藻岩の脚力が目立った。日頃の基礎練習のたまものである。

個人戦では福岡、太田（札幌）が光る。派手ではないが、確実に頭脳的なプレーが相手を寄せつけなかった。

総体的に見てテニス人口もふえ、ストロークも結構なものも見られるが、藻岩を除いては個人プレーにながれ、基本的な練習がおろそかになっているむきが見られる。テニスがレクリエーションとして流行しているおり、学校スポーツとしてのテニスとは何であるかを顧みる時期ではなかろうか。

【全国大会】

今年の北海道勢は例年になく充実しており好成績が期待されたが、2つの不運に遭遇した。1は対戦相手であり、2は当地でも久しぶりという猛暑であった。

男子団体はダブルスでよく健闘し、シングルスでもあわやというところまで追いつめたがもう一歩及ばなかった。女子も同様レベルの高い東京に対し、ダブルスで先行し、シングルスでも互角の戦いを挑んで会場を沸かせたが、シングルス第4シードの神崎にいまひとつキャリアの長があり、長蛇を逸した。

個人戦は猛暑のためにバテが出たものが多かった。とくにパワーの差が目立ち、耐久力の乏しさがポイント一つ一つに響いていたようである。太田（札幌）が暑さのために倒れるといったアクシデントもあったが、大会の多くが夏季、本州で行われる限り、それを乗り越える努力も今後必要であろう。この中で女子では2年生の大河原（藻岩）の健闘が目立った。将来楽しみな選手である。

（ 専門委員長 亀山 省吾 ）

優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

我々の学校は、創立してまだ5年しかたっていない、きわめて歴史の浅い学校です。ですから、我々3年生は、自分たちの手で庭球部の歴史を造ろうと毎日練習して、今やっと1ページ目を書き終えることが出来ました。

6月18日がついにやって来ました。我々の今までの努力が実を結ぶかどうか、はっきり表れる日です。だからこそ、1戦1勝、すべて全力を出して戦いました。

決勝戦は、1度しかない高校生活を悔いの残らないもののようにしようと、全員一丸となって戦い、われわれの最大の目標である、全道制覇を遂げることが出来ました。

この大会では女子も優勝して、一番喜んでくれたのは、やはり顧問の緒方先生だと思います。

先生は、毎日のように練習に出てくださり、技術面はもちろんのこと精神面においても非常にたくさんの方を教えてくださいました。我々の優勝の裏には、先生やその他の人による、目には見えないが確かに存在するたくさんの方の力や苦勞のあったことを忘れるわけにはいきません。

この全道優勝により、一つの事を成し遂げる事の難しさ、目標を持つことの大切さを知り、また我々の努力が一層意義のあるものになった事は言うまでもありません。

(札幌藻岩高校 高野 博行)

優勝のよろこび

女子 札幌藻岩高等学校

“勝つ”と言うことは、当然のことであつたはずなのに、本当に困難なことでした。勝つことへの自信は、豊富な練習量から得られる、と言われても私達にとってそれが勝利の確信とはなり得なかったのです。

私達の学校は開校してまだ日が浅く、長い伝統も、指導して応援をしてくれる先輩も殆ど皆無です。しかし、伝統を創ろう、部の基礎を固めよう、という意識は開校以来受け継がれた「何くそ精神」を根底に、強く部員一人一人の中に培われていました。ですから私達が頑張れば頑丈な土台を築く事ができると、お互い不安の募る心に言いきかせ決勝に臨みました。

昨年の決勝で優勝を目前にして破れた悔しさを繰り返さないために、この日のために連日、勞を厭わず指導し続けて下さった緒方先生のために、そして何よりも自分たちが。

遂に、優勝！単複、団体を制覇し、完全優勝達成、その上男子とのアベック優勝。それらの感激が、過ぎ去った時に切々と感じたのはなお「勝つことの難しさ」でした。そしてその難しいことをみんなで成し遂げることができたのだ、と思うと心からテニスをやってきてよかった、と思えたのです。

今、私達はこの喜びを是非後輩にも味わって欲しいと願っております。さらに、私達が築いた一段目の土台の上に、より頑丈な石を積み上げてくれることを。

(札幌藻岩高校 高橋 優子)

全国高校総体（第67回全国高等学校庭球選手権大会） 山口

8月1日～8日 宇部市中央公園球技場